

【第一次那覇市観光基本計画の評価検証】

取組の展開・取組の内容		検証結果（外部環境を踏まえた検証）		今後の方向性
		結果	判断理由	
取組の展開①：国際リゾート沖縄の拠点都市としての機能・魅力の充実				
(ア)	国内外からの交通ターミナル機能とクルーズ船受入機能の強化	要継続推進	クルーズ船ツアーは世界的な市場拡大が見込まれており、ターミナルの利用ニーズも高まる可能性が高いと考えられる。そのため、引き続き優先度を上げてクルーズ船客向けターミナルの強化、市街地への交通アクセスの利便性向上に取り組むことが考えられる	国際リゾート沖縄の拠点都市として機能・魅力を充実化させ成長していくためには、特に交通ターミナル機能とクルーズ船受入機能の強化、MICEの誘致・機能強化・受入体制整備が重要と考えられる。また、那覇市への訪問機会を高めるために、周辺地域の魅力と掛け合わせた滞在価値の造成が必要と考える。さらに、国際的なリゾートとしてのプレゼンスを確立していくために、沖縄らしい街並みや景観づくりも重要であるとする。
(イ)	沖縄MICE観光誘致と機能強化、アフター・ビジネス兼観光の充実	要継続推進	観光庁「第4次観光立国推進基本計画」では「アジア主要国における国際会議の開催件数に占める割合」が目標値として設定されており、国としてMICE誘致・開催に力を入れている。また、MICEは会議開催、宿泊、飲食、観光などの経済・消費活動の裾野が広く、滞在期間が比較的長い傾向があり、地域へ大きな経済効果を生み出すことが期待されるため、MICE誘致、受入体制強化、アフターコンベンションのメニューの充実化などに取り組む重要性は高いと考えられる	
(ウ)	周辺地域及び離島と連携した那覇市としてのリゾート機能の強化	要継続推進	那覇市は、周辺地域に対するゲートウェイとしての機能が求められていると考える。また、那覇市への訪問機会を高めるためには、多様なニーズに対応していくことが欠かせず、周辺地域の魅力と掛け合わせた滞在価値の造成が必要と考える。地域間での役割分担を明確にしたうえで更なる連携強化を図り、取組を推進していくことが重要と考えられる	
(エ)	国際リゾートの拠点都市に相応しい都市景観づくり	要継続推進	国際的なリゾートとしてのプレゼンスを確立していくためには、沖縄らしい街並みや景観づくりが重要であるとする。引き続き、市内のゾーニングを踏まえたうえでゾーンごとの観光客の動線を考慮しながら景観整備などを進めていくことが考えられる	
取組の展開②：沖縄・那覇らしい観光資源の発掘、創造と魅力向上				
(ア)	首里城を筆頭とした琉球王国の歴史の学び・体験メニューの充実	要継続推進	モノ消費からコト消費、さらにはトキ消費へと消費形態が変化していく中で、特に若者やインパウンドは、ある特定の場所や時間でしか得られない体験を求める傾向にある。これらのニーズを取り込むためには那覇ならではの歴史の学び・体験メニューなどをより充実化していくことが必要と考えられる。引き続き、行政、民間事業者、観光協会などで連携し役割分担しながら取組を推進することが考えられる	沖縄・那覇らしい観光資源の発掘、創造と魅力向上にあたっては、行政、民間事業者、観光協会で連携し、那覇ならではの歴史・文化・特産物などを保全し次世代に継承しながら、これらを活かしたコンテンツの発掘・創造・磨き上げを行っていくことが重要であると考えられる
(イ)	五感を楽しませる生活文化体験メニューの充実	継続するか要検討	観光資源を保全・発展させ、高付加価値な体験メニューづくりを継続することは必要と考える。しかしながら、周辺地域との資源の違いを鑑みると「五感を楽しませる生活文化体験メニュー」に那覇市が注力すべきか検討が必要と考える	
(ウ)	伝統的な文化の継承・発信と新たな若者文化の発信・交流	要継続推進	今後も持続的に伝統的文化を継承し世界へ発信していくために、引き続き官民連携で取組を推進していくことが考えられる。一方で、若者文化に関しては、その土地ならではの体験や地域住民との交流などへのニーズ、サブカルチャーやアートなどへのニーズが高まっており、沖縄県の中心地である那覇市で取組を推進することの重要性は高いと考えられる	
(エ)	那覇ならではの地場産品、物産の発掘と魅力向上	要継続推進	消費されている物品等の域内調達率を高めることは、観光振興の経済波及効果に直結する取組であり、地場産品・物産の発掘と魅力向上に向けて継続した対応が必要と考える。国内外のニーズやトレンドなどを的確に把握したうえで、行政、民間事業者、観光協会などで連携しながら取組を推進していくことが考えられる	
取組の展開③：那覇ならではの受け入れ、おもてなしの体制強化				
(ア)	観光サポーター・ガイドとなる担い手の育成と組織化	要継続推進	観光客に地域の知識を共有しながら観光における行動や安全を管理するガイドは、観光客の満足度を高めるうえで重要性が高いと考えられる。また、地域の自然や歴史、文化などの魅力を物語として観光客にわかりやすく伝える「インタプリテーション」の必要性が高まっており、ガイド人材の確保、ガイドの質の向上が求められていると思われる	那覇ならではの受け入れ、おもてなしの体制強化にあたっては、まずは関係者間での連携強化を図り地域一体で取組を推進することが重要であると考えられる。だれもが安心・安全に観光できることを念頭に、SDGsの考えも踏まえたうえで、ハード・ソフト両面の体制整備を推進していくことが考えられる。また、より質の高い観光に向けて、観光事業者や市民のおもてなしの意識を醸成することも重要と考えられる
(イ)	ユニバーサルツーリズムの推進	要継続推進	「だれ一人取り残さない」SDGsの考えの浸透や、高齢者増加などの背景により、誰もが楽しむことができる「ユニバーサルツーリズム」が世界的に推進されている。那覇市においても、要支援観光客含むすべての観光客が楽しむことができるよう、継続してハード・ソフト両面での整備を推進するとともに、観光事業者への普及啓発や整備に係る費用の補助支援なども行っていくことが考えられる	
(ウ)	地域ぐるみでのおもてなしの展開	要継続推進	おもてなしの向上は観光客の満足度に直結するため、引き続き行政・観光事業者・市民など地域全体で、おもてなしの意識を醸成し、質の高い那覇市観光につなげていくことが考えられる	
(エ)	安全・安心・快適なまちづくり	要継続推進	甚大化する災害や新型コロナウイルスの影響により、より安全で安心な観光を求める声があがっており、住民・観光客の双方にとつての安全・安心・快適なまちづくりを追求していくことが重要と考えられる。引き続き、行政側で観光に関連するリスクを管理するとともに、民間事業者に対して適切に指導・支援していくことが考えられる	
(オ)	観光協会の機能充実	要継続推進	観光地経営の高度化に向けて、マネジメント組織の機能強化は重要であると考えられる。優先度を上げて、専門知見を有する人材の取込や関係者間の連携強化などを通して取組を推進していくことが考えられる	

取組の展開④：市内回遊と交通ネットワークの連携・整備				
(ア)	交通結節点整備と回遊できる仕組みづくり、二次交通の利便性向上	要継続推進	世界全体でも、国内でも、観光に起因する混雑問題は注視されており、市民の生活に悪影響が及ばないよう対策が求められている。那覇市では道路や公共交通機関の混雑問題が発生しており、問題解決に資する交通体制整備が求められていると考える。優先度を上げて、パークアンドライドの推奨、観光スポットの分散化、公共交通機関やレンタサイクルの推進、環境に配慮した次世代モビリティの導入などの対応策を推進していくことが重要と考えられる。また、那覇市内周遊をより促進させるために、那覇空港や那覇港からの二次交通の利便性を向上させるとともに、二次交通の案内を充実化が必要であると考えられる	那覇市内の周遊を促進していくためには、那覇空港や那覇港からの二次交通の利便性を向上させることが非常に重要であると考えられる。その際には、レンタカーにより交通渋滞問題が発生していることを考慮しながら、公共交通機関（バスやゆいレールなど）、レンタサイクル、徒歩などの代替手段を充実化させることも重要と思われる
(イ)	巡って楽しめる魅力的な道づくり・景観づくり	要継続推進	居心地が良く歩きたくなる「ウォーカブル」が注目されており、観光客・市民双方がまち歩きを楽しめるよう、魅力的な道づくり・景観づくりは重要と考えられる。引き続き、道路空間の見直し、歩行者空間の拡充・利活用促進、景観整備などを通して取組を推進することが考えられる	
取組の展開⑤：那覇市観光の内外への情報発信強化				
(ア)	世界へ向けた旬の魅力の情報発信	要継続推進	国内観光客・インバウンドともに、来訪前/来訪中における情報収集の手段は年々変化している。アプリでのプッシュ通知などによる情報のリアルタイム発信や、AIを活用し年齢や性別などの属性ごとにパーソナライズ化された情報の提供など、SNSの活用も含めてより質の高い、ニーズに沿った情報発信方法を実施していくことが考えられる	那覇市観光の内外への情報発信にあたっては、SNS、アプリ、ICT技術、AIなどを活用しながら、情報発信方法を観光客のニーズに合わせてアップデートし続けることが望ましいと考えられる
(イ)	口コミ・SNS情報の展開～市民と観光客によるシティセールの展開	要継続推進	旅行者が来訪前に観光地の情報を収集する際は、国内観光客・インバウンドともに、SNSや口コミなどを参考にすることが多いため、引き続き取組を行っていくことが考えられる	
取組の展開⑥：外国人観光客への体制整備				
(ア)	国別のニーズ、特徴を見据えた誘客戦略・プロモーション	要継続推進	那覇市観光におけるターゲット層を明確に定めたうえで、ターゲットごとに適切なマーケティング・プロモーション施策を行うことが望ましいと考えられる。また、JNTO（日本政府観光局）、県、OCVBの国内、海外事務所との連携強化や、商談会の活用、那覇市に在住する外国人あるいは那覇市で観光産業に従事する外国人などによる魅力情報発信なども重要と考えられる	インバウンドの受入にあたっては、国籍別にニーズを把握したうえで適切なプロモーションや情報発信を行い誘客するとともに、来訪後の満足度向上に向けて多言語対応やWi-Fi環境整備、キャッシュレス決済整備などを行い、受入体制をさらに充実化していくことが考えられる
(イ)	沖縄文化を通じた日本の魅力、那覇ブランドの発信	要継続推進	インバウンドは日本ならではの文化や歴史を楽しめる体験を求める傾向にあり、インバウンドのさらなる取り込みに向けて、ニーズを踏まえて沖縄の文化や歴史を通じた日本の魅力や那覇の魅力の発信を行うことが考えられる	
(ウ)	外国語標記、Wi-Fi環境整備など情報発信の整備と利便性向上	要継続推進	インバウンドが訪日中に困ったことは、「施設等のスタッフとのコミュニケーションが取れない」「無料公衆無線LAN環境」「多言語表示の少なさ・わかりにくさ」などが挙げられ、インバウンドの満足度向上に向けて事業者との連携を視野に入れつつこれらに対処していくことが考えられる。また、インバウンドの消費に直結するキャッシュレス決済の整備や消費税免税店の拡大・制度の情報発信も、推進していく必要があると考えられる	
(エ)	観光事業者の語学力向上及び外国人向け通訳・ガイドの育成	要継続推進	インバウンドが訪日中に困ったことは、「施設等のスタッフとのコミュニケーションが取れない」が一番多く挙げられており、インバウンドの満足度を向上させるためには、受入側の語学力を向上させ多言語対応を推進することが考えられる。また、語学力の向上のみならず、指差しシートや翻訳機器、AR技術、ICT等の活用促進も視野に入れることが考えられる	
取組の展開⑦：観光産業の持続的な発展支援				
(ア)	雇用の確保、労働環境の改善による観光産業の社会的地位の向上	要継続推進	観光産業は従来より「労働時間が長い」「低賃金」などのマイナスのイメージがあることに加え、新型コロナウイルスの影響により「感染症などの影響を受けやすい不安定な産業」のイメージがついてしまっている。また、新型コロナウイルス前より観光産業における人材不足は課題となっていたが、新型コロナウイルスにより人材の観光産業離れが加速し、深刻な人手不足に陥っている。観光産業の持続的な発展を支えるためには、観光産業の雇用確保に向けて、労働環境の改善、給与の改善、福利厚生の充実化などの取組が重要と考えられる。また、観光関連事業の中核人材や経営人材の育成、市内の若者への観光産業への就労促進にむけた取組などを優先度を上げて行うことも考えられる。	地域の社会・経済、文化、環境の持続可能性に配慮しながら観光を振興していくことが求められている。那覇市において観光は主要な産業の1つであり、新型コロナウイルスの影響により経営に打撃を受けた観光事業者は多く、観光産業の持続的な発展に向けて継続した支援が求められていると思われる。また、市民生活への配慮、環境への配慮も重要と考えられる
(イ)	子供から高齢者まで、那覇市観光に対する市民理解の向上	要継続推進	那覇市において観光は主要な産業の1つであり、観光振興による市民生活への恩恵をきちんと説明するなどして、観光に対する市民の理解を向上させることは重要と考えられる	
(ウ)	エコ、環境保護に対応した観光産業の取り組みの推進	要継続推進	国内観光客・インバウンドともに環境への意識は高まっており、今後は「環境に配慮した取組を実施しているか」が旅行先や宿泊先などの検討における判断軸となっていくことも考えられる。そのため、環境に配慮した取組を推進することは重要性が高いと考えられる	
(エ)	観光入込統計の充実および観光客と市民の意識調査の定期的実施	要継続推進	観光振興にあたり、観光客数や観光消費額、市民・観光事業者・観光客の意向を定期的に把握し、データに基づいて取組を検討・実行することは重要であると考えられる	

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証（令和5年2月）				
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況
【取組の展開①】国際リゾート沖縄の拠点都市としての機能・魅力の充実								
(ア)国内外からの交通ターミナル機能とクルーズ船受入機能の強化								
	1	国際線ターミナルでの観光情報の提供充実に取り組む	観光課	本市での取り組みは行っていない。	沖縄県や民間企業により実施されているため、本市は他取組に注力する。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	2	沖縄県の玄関として、二次交通全般の利便性、接客サービスの向上に取り組む。	観光課	入港時セミナー等をおこなうことで外国人観光客満足度向上を図っている。実施主体は「那覇クルーズ促進連絡協議会」、本市は同協議会へ補助金交付。	（成果）クルーズ客向けに臨時観光案内所の設置や演舞披露を実施し、2019年の那覇港への寄港回数は全国1位の260回を記録。 （課題）アフターコロナ後のクルーズ再開に向けた対応及び、広域化するクルーズ客への対応として周辺自治体との協力体制の構築 （今後の取り組み）臨時観光案内所の設置等の取り組みを続け満足度向上を図る。	外国人観光客誘客促進事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
			都市計画課	クルーズ船寄港時に、沖縄らしい特色のあるエイサー演舞や三線の演奏等のおもてなしを実施することにより、那覇港を訪れる旅行者の満足度を向上させ、クルーズ船寄港数とリピーターの増加による人流の活性化を図っている。	令和2年～令和4年は、クルーズ船寄港が少なかったため、実施を見送ったが、今後実施に向け、県等の観光関連部署と実施に要する費用等について協議を進めるとともに、内容の見直し充実を図る。	・万国津梁のロマンあふれる交流のみなとまちづくり事業(H29d～R3d) ・戦略的クルーズ観光推進事業(R4d)	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	3	クルーズ船の誘致とクルーズパースの増設を図る。	観光課	旅客ターミナル未着工のため、観光案内業務を行う拠点が無い。	（課題）ターミナル未着工のまま、岸壁が供用開始されることに対する現地のイメージダウン。（2次交通課題、風雨・猛暑時の客誘導等）岸壁予約受付時に、下船後の2次交通手配実施の条件付け。 旅客ターミナルの早期着工。 岸壁予約方法の見直し（キャンセルチャージ等の検討）	外国人観光客誘客促進事業	クルーズ船ツアーは新型コロナウイルス禍の落ち込みから回復し、主な顧客層である高齢者の増加、サービス内容の多様化による若年層・ファミリー層等の関心の高まり等により、世界的な市場拡大が見込まれている 世界の港湾・ターミナル運営市場は、2020年には約3億3,500万米ドルとなり、2021年から2027年の予測期間には2.0%以上の健全な成長率が見込まれており、ターミナルの利用ニーズも高まる可能性が高いと考えられる	停滞
			都市計画課	国において「那覇港国際クルーズ拠点整備」が事業化され、国は係留施設及びターミナルビル用地等、那覇港管理組合はバス及びタクシー駐車場等の関連施設の整備を完了させた。	クルーズ船社と連携して旅客ターミナルビルの整備を進めていく。	第2クルーズパース整備事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	4	クルーズパースと市街地を結ぶルートを中心とした周辺環境、景観整備に取り組む	都市計画課	那覇市景観計画において、骨格的景観要素として都市のシンボル軸に位置付け、誘導を図っている。	今後の道路事業と合わせて、景観計画に基づいた景観誘導を図っていく。	那覇市景観計画 那覇市景観計画景観ガイドライン（以上、都市計画課）	クルーズ船で来訪したインバウンドが那覇市内の観光スポット等を周遊するためには、クルーズ船から市内までの動線を確保し整備することが望ましいと考えられる。その際には、生活する市民への影響も考慮し、渋滞等の問題が発生しないよう、市民と観光客が調和できるよう配慮することが望ましいと考えられる	着手済み
			道路管理課	観光に資する路線について、観光都市としてふさわしい道路景観の形成を図るため、街路樹の剪定や除草、花の咲く低木の植栽などを行っており、クルーズターミナルと市街地を結ぶ「久米若狭線」においても事業を実施している。 また、第2クルーズパースの完成に伴い、観光バス等の交通量増加も見込まれることから、安全安心で快適な道路空間を創出図るため、港町地区における舗装の修繕を実施している。	今後も引き続き、観光に資する路線において、道路美化(高木剪定・除草・植栽)を行い観光都市としてふさわしい道路環境及び景観を創出する。あわせて、周辺道路においても、街路樹の剪定や除草等を適切に実施する。 また、第2クルーズパースの完成に伴い、観光バス等の交通量増加も見込まれることから、港町地区における舗装の修繕を行い、安全安心で快適な道路空間を創出図る。	亜熱帯庭園都市の道路美化事業 道路維持管理事業 街路樹維持管理費 港町地区路面修繕事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
			道路建設課	クルーズパースと市街地を結ぶ松山線の道路拡張工事を実施。また、沿線に観光客や地域住民の交流の場となるような憩いのオアシス空間を整備する。	これまで首里地域や壺屋やちむん通り等観光客が多く訪れる地域9箇所を整備した。R1年度の整備事業をもって事業は完了した。	交流オアシス整備事業 (道路建設課) 街路整備事業(道路建設課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
	5	那覇市の玄関に相応しい空・海から見た景観づくりに取り組む	都市計画課	那覇市景観計画において、都市型リゾート景観形成を目指す沿岸エリアに位置付け、誘導を図っている。	沿岸エリアの開発と合わせて、景観計画に基づいた景観誘導を図っていく。	那覇市景観計画 那覇市景観計画景観ガイドライン（以上、都市計画課）	国際的な観光都市として成長していくためには、引き続き都市景観を整備し観光都市としての質を向上していくことが望ましいと考えられる	着手済み
			花とみどり課	平成27年度に若狭緑地内ヘシンボル像(龍柱)2基を設置した。今後、さらに魅力的な景観とするため、電線類の地中化等を検討中である。	電線類の地中化等に向けて、関係機関と調整を行い、景観整備に取り組んでいく。	・那覇・福州友好都市交流シンボルづくり事業(花とみどり課) ・那覇市シンボルロード景観整備事業(花とみどり課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証（令和5年2月）				
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況
(イ) 沖縄MICE観光誘致と機能強化、アフター・ビジネス兼観光の充実								
	6	沖縄県、OCVBと連携したMICE誘致促進に取り組む。	観光課	MICE誘致に関して県・OCVBと連携が図れていない。	R4年度に沖縄県MICE振興戦略の改定を行っている。同戦略を踏まえて、県・OCVBとの連携体制について検討・相談を行う。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	7	那覇市としてMICEの誘致、受入体制に関する連絡調整体制の整備に取り組む。	観光課	MICE関係事業者等から意見聴取、市内事業者向けアンケートを実施している。	市内事業者より那覇MICE受入促進に向けた意見集約ができた。これを踏まえて、R5年度以降受入体制構築・誘致活動実施に繋げる。	R4：那覇MICE受入推進事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	8	アフターコンベンションのメニュー、ユニークベニューの開発連携に取り組む。	観光課	MICE関係事業者等から意見聴取、市内事業者向けアンケートを実施している。	市内事業者より那覇MICE受入促進に向けた意見集約ができた。これを踏まえて、R5年度以降受入体制構築・誘致活動実施に繋げる。	R4：那覇MICE受入推進事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	9	夜の観光エンターテインメントの充実を図る。	観光課	民間事業者の早朝・夜間のコンテンツ造成に対する補助を実施したが、活用件数が伸び悩み、R4のみの実施となったため。	外部要因としてコロナ禍における国・県によるコンテンツ造成に対する高率補助があったことや関係者より「早朝・夜間に限ったコンテンツ造成」であり活用し辛いなどの意見があった。国・県の支援制度を注視しつつ、市内事業者のニーズ把握を行いながら必要に応じて事業検討する。	R4：早朝・夜間の活動時間創出支援事業	海外の先進的な観光都市では経済効果が高いナイトタイムエコノミーの取組が盛んであり、国内外からの交通ターミナル機能を有する那覇市においてもインバウンドの更なる取り込み、観光客の消費額の増加に向けて取組を行うことが望ましいと考えられる	停滞
	10	全天候型の観光プログラムの充実を図る。	観光課	民間事業者の早朝・夜間のコンテンツ造成に対する補助を実施したが、活用件数が伸び悩み、R4のみの実施となったため。		R4：早朝・夜間の活動時間創出支援事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	停滞
	11	スポーツ施設の整備・充実、スポーツイベント・キャンプの誘致・開催促進に取り組む。	観光課	3年ぶりのNAHAMARASON実施に係る支援を行った、読売巨人軍春季キャンプについては継続して誘致をおこなうため、施設整備を行っている。キャンプ期間中に各種広報活動や制作物を会場に設置して那覇市全体でにぎわいの創出を行っている。	コロナ過前の水準まで参加者や来場者が回復していない現状がある。引き続き安全安心に参加できるよう周知徹底することや魅力あるイベント構築のため、関係各所と調整を進めていく。	プロ野球キャンプ等支援事業 プロ野球にぎわい創出事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
(ウ) 周辺地域及び離島と連携した那覇市としてのリゾート機能の強化								
	12	久米島、粟国島、渡名喜島、慶良間諸島及び周辺観光地の情報を集約し、那覇市に滞在していても手配できる環境整備に取り組む。	観光課	取り組みがないため。	民間事業者の離島観光案内窓口での手配や滞在中でもネットを介してツアー予約など一部でサービス提供が行われている。民間事業者や沖縄県が設置する観光案内所の取り組みを注視しつつ、さらなる充実が必要か検討を行う。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	13	離島及び周辺観光地への交通アクセス情報の一元化と提供に取り組む。	観光課	3年間の事業としていたため、令和元年度にて事業終了。問い合わせ内容の割合では、北部エリアへのルートや県全域のホテル情報が最も高い。	（成果）夏の繁忙期6～10月の設置で H29年 5,988名 H30年 8,412名 H31年 7,512名 が利用。 案内所設置当初に比べ、館内案内や券売スタッフの多言語対応が増加し、案内所に求められるニーズが当初の案内業務からホテル手配や現地観光手配希望などへの変化が見受けられた。 今後の離島及び周辺観光地への情報提供の手法について関係団体や利用者ニーズを踏まえ、県や関係団体等と調整しながら検討が必要。	那覇と周辺離島の連携による観光振興事業(観光課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
	14	離島及び周辺観光地への小旅行パッケージの開拓を図る。	観光課	取り組みがないため。	民間事業者により旅行商品等が販売されており、新たに実施・支援する必要性が乏しかったため実施していない。今後は、市内事業者のニーズ把握を行いながら必要に応じて事業検討する。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	15	周辺市町村、観光協会、交通事業者間の連携強化を図る。	観光課	コロナ禍において、関係機関・業界と連絡・相談を行い支援事業を実施できた。	必要に応じ連絡・相談を行い連携したことでコロナ対策事業を立案・実施できた。 今後も同様に連携し、適時適切な事業を実施していく。	市内宿泊・観光体験等促進クーポン（那覇とまーる）事業 市内貸切バス事業者支援事業 那覇市観光事業者等応援給付金 など	地域一体で観光振興に取り組むにあたり、関係者間の密な連携は重要度が高いと考えられる。更なる連携強化を図り、関係者の意向を適切に把握し合意形成したうえで観光地経営を行っていくことが重要と考えられる	着手済み

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証（令和5年2月）				
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況
(工) 国際リゾートの拠点都市に相応しい都市景観づくり								
	16	国際リゾートにふさわしい景観整備を行い、行政、市民、民間事業者の協働による緑化・植栽の維持管理体制を検討する。	道路管理課	協働による緑化・植栽の維持管理体制づくりの一環として、道路ボランティア事業とグリーンロードサポーター事業を実施している。	R5.1月末時点の延べ件数がそれぞれ、道路ボランティア147団体、グリーンロードサポーター47団体となっている。 加入団体の構成員の高齢化等が課題となっており、引き続き加入団体の支援及び新規団体の募集に努める。	道路ボランティア事業 グリーンロードサポーター事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	17	観光ゾーニングの「中心市街地賑わいゾーン」を中核として、首里城・識名ゾーンと那覇市クニダ歴史交流ゾーン、ウォーターフロントゾーンを結ぶルートを、観光客のまち歩きの手とし、歩いて楽しい街並み景観の形成を図る。	都市計画課	都市景観形成地域指定地域「首里金城地区」「龍潭通り沿線地区」「壺屋地区」の3地区の赤瓦や石積み等へ助成している。	赤瓦屋根の漆喰塗り替えのメンテナンスへの助成に関する周知のため、各戸に案内を行い助成に繋げた。引き続き、積極的な周知のため、チェックリストを作成や窓口やHPにて情報発信を行う。	景観形成推進事業(都市計画課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
			道路建設課	観光地周辺の道路を石粉舗装にし沖縄らしい風景を形成する。これまでに、市内16地域(首里・壺屋など)整備済みである。	R2・3年度は上間・識名地内、R4年度は山下町地内を整備し、R5年度は引き続き残りの山下町地内を整備予定である。	歴史散歩道整備事業(道路建設課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	18	ウォーターフロントのブルムナードづくりに取り組む。	都市計画課	「那覇港みなとまちづくりマスタープラン」に位置づけられている事業として、那覇港全域で那覇港多言語誘導標識整備事業を実施し、泊ふ頭ではブルムナード整備の一環で、屋根付歩道整備事業を進めている。	那覇港みなとまちづくりマスタープランは、概ね5年ごとに各フェーズにおける事業の実施状況を検証することとしており、令和2年3月、那覇港管理組合において、フェーズ1について検証を行ったところ。今後は、那覇港長期構想(R4.4)、那覇港港湾計画改訂(R5.3予定)を踏まえ、対象エリアの拡大や内容の見直し充実を図る。	那覇港長期構想(R4.4)、那覇港港湾計画改訂(R5.3予定)	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
【取組の展開②】沖縄・那覇らしい観光資源の発掘、創造と魅力向上								
(ア) 首里城を筆頭とした琉球王国の歴史の学び・体験メニューの充実								
	19	首里城、識名園及び福州園などがある松山地区を中心とした市内歴史文化探索コースの設定、商品化を図る。	観光課	那覇まちま〜いのコース中に、歴史を感じるコースを設定している。	引き続き、歴史コース設定を行っている那覇市観光協会の継続的な取り組みへ支援を行う。	観光まちづくり整備補助金	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	20	那覇市を起点とする世界遺産めぐりの定期バスツアー、タクシーツアーの商品化を図る。	観光課	取り組みがないため。	民間事業者にて取組が行われており、市として注力すべき取組の内容ではなかった。 支援の必要性も乏しいが、事業者等から相談があれば商品化支援等の検討が必要。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	21	琉球王国時代のテーマで絞った観光メニュー、コース開発を行う。（史実、戦国、食、建築、信仰、市民生活等々）	観光課	那覇まちま〜いのコース中に、歴史を感じるコースを設定している。	引き続き、歴史コース設定を行っている那覇市観光協会の継続的な取り組みへ支援を行う。	観光まちづくり整備補助金	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証（令和5年2月）				
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況
(イ) 五感を楽しませる生活文化体験メニューの充実								
	22	市民が集う食堂・居酒屋・マチグー（公設市場とその他の市場）や商店街・スピリチュアルスポット等、生活に根付いたスポットの発掘に取り組む。	観光課	事業としてはR1年度に終了。	R1年度に事業終了後も観光課公式イン스타그램の運用を続け、観光客向けに市内の様々な観光情報を紹介。今後も必要があれば情報発信を続ける。	物語性のあるランドマーク創出事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
			なはまち振興課	【国際通りトランジットマイル助成金事業】 毎週日曜日（12時～18時）に行われるトランジットモールでは、大道芸やエイサー等のイベントを実施しており、そのトランジットモール事業に支援を行っている。【着手済み】 【頑張るマチグー支援事業】 中心商店街の活性化に向けた事業を行なう、商店街振興組合等に対して補助金を交付し支援している。【着手済み】 【那覇市地域商店街支援事業】 中心商店街以外の商店街の活性化に向けた事業を行なう、商店街・通り会等に対して補助金を交付し支援している。【着手済み】 【第一牧志公設市場再整備推進事業】 令和4年度末に新第一牧志公設市場を供用開始する。【完了】	【国際通りトランジットマイル助成金事業】 継続して支援を行うとともに、賑わいを創出し、魅力のある国際通りを目指して取り組んでいく。【S】 【頑張るマチグー支援事業】 今後も商店街・通り会等の支援を継続していく。【S】 【那覇市地域商店街支援事業】 今後も商店街・通り会等の支援を継続していく。【S】 【沖縄の食の魅力発信拠点整備事業】 新第一牧志公設市場の供用開始に伴い事業終了【C】	・国際通りトランジットマイル助成金事業 ・頑張るマチグー支援事業 ・那覇市地域商店街等支援事業 ・沖縄の食の魅力発信拠点整備事業 (なはまち振興課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	23	ゆいレール、観光周遊バス、路線バス、レンタサイクルなどと連携した多様な回り方のシステム化を図る。	都市計画課	那覇市都市交通基本計画で、「公共交通利用環境の向上・充実」、「多様な移動手段の利用環境の向上・充実」を図っている。	令和4年度に本市における自転車の活用を総合的かつ計画的に推進することを目的に那覇市自転車活用推進計画の策定を予定しており、自転車等の多様な移動手段と公共交通機関等が連携した環境の向上・充実に取り組む。	那覇市交通基本計画 第二期那覇市総合交通戦略	市民生活に配慮しながら観光振興に取り組みが必要と考えられるが、那覇市では特に観光客のレンタカーによる交通渋滞が市民生活にマイナスの影響を及ぼしている。レンタカーに頼らない、ゆいレールやバス等の公共交通機関、環境負荷が少ないレンタサイクル等を活用した周遊を促進することの重要性は高いと考えられる	着手済み
			観光課	未着手であり、実施手法について今後要検討。	民間事業者の取り組みを注視し、必要に応じて支援策等を検討する。	特になし		未着手
	24	生活文化を活用した体験プログラムの開発と専任のガイド育成を図る。	観光課	那覇まちま～い事業の中で、新任ガイドの育成及び新たなコース開発に取り組んでいる。	那覇市観光協会の継続的な取り組みへ支援を行う。	観光まちづくり整備補助金	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	25	宿泊施設とタイアップした「宿泊＋那覇市生活体験メニュー」の商品開発に取り組む。	観光課	取り組みがないため。	宿泊事業者の宿泊プランとして地域の体験メニューをパッケージ化・商品化する事例があり、市として取り組む必要性が乏しい。 支援の必要性も乏しいが、事業者等から相談があれば商品化支援等の検討が必要。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	26	野鳥観察等、自然体験できるメニューの開発に取り組む。	観光課	取り組みがないため。	世界自然遺産の登録区域と決定された本島北部や、本市周辺のビーチなど自然を活かした観光コンテンツと比較し、観光商品と打ち出すに慎重な検討を要する。 事業者等から相談があれば商品化支援等の検討が必要。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	27	温暖な気候を活かしたスポーツイベント、スポーツ施設の充実に取り組む。	観光課	3年ぶりのNAHAMARASON実施に係る支援を行った、読売巨人軍春季キャンプについては継続して誘致をおこなうため、施設整備を行っている。キャンプ期間中に各種広報活動や制作物を会場に設置して那覇市全体でにぎわいの創出を行っている。	コロナ過前の水準まで参加者や来場者が回復していない現状がある。引き続き安全安心に参加できるよう周知徹底することや魅力あるイベント構築のため、関係各所と調整を進めていく。	プロ野球キャンプ等支援事業 プロ野球にぎわい創出事業	スポーツイベントやプロスポーツのキャンプでは多くのイベント参加者やファンが来訪するため、地域への経済効果は高いと考えられる。那覇市内の沖縄県立武道館や那覇市民体育館はもちろんのこと、沖縄市の沖縄アリーナとも連携しながら、イベントやキャンプの誘致・開催に取り組むことが考えられる。また、ナイトタイム活性化と合わせたコンテンツ開発も考えられる	着手済み
	28	家族や子供が楽しめるメニューの開発に取り組む。	観光課	民間事業者の早朝・夜間のコンテンツ造成に対する補助を実施したが、活用件数が伸び悩み、R4のみの実施となったため。	外部要因としてコロナ禍における国・県によるコンテンツ造成に対する高率補助があったことや関係者より「早朝・夜間に限ったコンテンツ造成」であり活用し辛いなどの意見があった。 国・県の支援制度を注視しつつ、市内事業者のニーズ把握を行いながら必要に応じて事業検討する。	R4：早朝・夜間の活動時間創出支援事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	停滞

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証（令和5年2月）				
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況
(ウ) 伝統的な文化の継承・発信と新たな若者文化の発信・交流								
	29	那覇ハーリー、那覇大綱挽など伝統行事の継承及び発信を図る。	観光課	会場での多言語アナウンスや英語版のパンフレットの制作・配布や、NANAUIホームページにて多言語でのイベント紹介ページの掲載を実施。	伝統行事（イベント）開催情報の発信を各実行委員会や那覇市観光協会と連携して実施してきた。コロナ禍で中止・延期もあったが、R4年度には感染症対策を図りながら再開することができた。引き続き、情報発信及び実施主体への支援を行う。	那覇爬龍船振興会補助金、 那覇大綱挽保存会補助金、 琉球王朝祭り首里事業補助金、 那覇三大祭り支援事業、 首里城祭事業補助金、 観光協会事業補助金	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
			なはまち振興課	夏祭りin那覇実行委員会が実施する「一万人のエイサー踊り隊」の開催に関して支援を行っている。	継続して開催支援を行うとともに、広報支援の強化、当日の運営改善に努める。	一万人のエイサー踊り隊助成金事業(なはまち振興課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	30	安里のフェーヌシマ、国場のウズンピーラ、首里汀良町などの獅子舞、安次嶺の村踊りなど、地域に伝わる伝統芸能の継承及び発信を図る。	文化振興課	①各団体の活動に対する補助や、②市内の伝統芸能を中心とした公演（地域文化芸能公演）を通して、保存継承や発信を行っている。	①コロナの影響により、各団体の活動状況に差が生じているため、活動が停滞している団体には、定期的にヒアリングを行い、課題を把握する必要がある。①地域文化芸能公演を通じて、市内の伝統芸能を発信できた。①②いずれも事業を継続していく	①伝統芸能文化の継承発展補助事業 ②文化芸術ふれあい事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	31	琉球舞踊、三線、空手など伝統文化の体験促進を図る。	文化振興課	未着手であり、実施手法について今後要検討。	民間団体等の取り組みを注視しつつ、今後の取り組みの方向性について検討を行う。	特になし	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	32	伝統工芸制作工程の公開や体験の促進を図る。	商工農水課	那覇市伝統工芸館の特別展示質、販売場、体験工房を備えた工芸産業振興拠点施設の運営管理を行っている。	伝統工芸館の集客や魅力度向上に向け、民間活力による新たな工芸産業振興拠点施設の管理運営に取り組む。	伝統工芸館運営事業等	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	33	若者の芸術文化、サブカルチャーの発表、交流イベントを実施し情報発信に取り組む。	観光課	取り組みがないため。	マスツーリズムから個人旅行への移り変わりの中で、特定の趣味趣向に合わせた観光コンテンツとしての活用が背景にあるが、これらをメインコンテンツにしたイベント等を実施していない。 コロナ禍を経て個人の価値観の変化が言われており、ニーズの研究など慎重な事業検討が必要。	－	近年では、モノ消費からコト消費への移行もあり、特に若者世代やインバウンドを中心に、その土地ならではの文化体験や自然体験、地域住民との交流等へのニーズが高まっている。また、アニメや漫画といったサブカルチャーやアート等をメインコンテンツとしたイベント等へのニーズも高まっており、沖縄県の中心地である那覇市で取組を推進することの重要性は高いと考えられる	未着手
(エ) 那覇ならではの地場産品、物産の発掘と魅力向上								
	34	那覇ならではの魅力的な土産品、物産の開発に取り組む。	商工農水課	那覇市の観光資源等を活用した商品・サービスの販売・売上促進を図るため企画・開発に係る費用を支援している。	通算100品以上の商品を開発しているが、販売中止になっているものも多いため、目玉になり定番化するような商品の開発が支援できるよう取り組みを継続する。	新商品開発支援事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	35	「那覇市の逸品ブランド（仮称）」の認定制度の導入を検討する。	商工農水課	市内事業者が新規開発した商品から優良商品を選定し那覇市長賞を授与している。	イベント開催等を通じて、賞及び商品の認知度向上のための取り組みを継続する。	那覇市長賞選定・販売促進事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
	36	マグロや鏡水大根（島野菜）など、特産物の魅力を発信する。	商工農水課	コロナ禍の影響により、イベント中止。水産教室を市内小学校を対象に実施した。	イベント実施の要望を募り、イベント開催の支援をする。水産教室については開催時期を早める事で、小学校の水産業の授業に絡めて実施できるよう取り組みを継続する。	市魚マグロ等水産物流通支援事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
	37	沖縄の食材を活かした新たな食の開発に取り組む。	商工農水課	安値で取引されている水産物等を利用した加工商品開発の可能性について調査を実施。	引き続き、水産物を活用した加工商品開発の調査を実施する。	水産物利活用調査事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証（令和5年2月）				
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況
【取組の展開③】那覇ならではの受け入れ、おもてなしの体制強化								
(ア) 観光サポーター・ガイドとなる担い手の育成と組織化								
	38	まち歩きや那覇市の歴史・文化・生活を伝えるガイド人材の育成と活用体制の整備に取り組む。	観光課	那覇まちま〜い事業の中で、新任ガイドの育成及び新たなコース開発に取り組んでいる。	那覇市観光協会の継続的な取り組みへ支援を行う。	観光まちづくり整備補助金	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
			なはまち振興課	頑張るマチグー支援事業は、商店街の活性化を図ることを目的に商店街支援のための補助制度であることから、申請対象を商店街団体としており、令和4年度より那覇市街角ガイドを含むNPO法人は対象団体としていない。	当該NPO法人が補助を活用したい場合は、商店街等と連携を取り、商店街等を実施主体として申請する必要があることから、商店街等との連携を促す。	頑張るマチグー支援事業(なはまち振興課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	39	観光産業の持続的な発展を支える、観光関連事業の中核人材、経営人材の育成を図る。	観光課	取り組みがないため。	OCVBが実施している事例などを参考に、関係機関および関係団体との連携を含め引き続き実施手法について検討する。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
			生涯学習課	令和2年4月、那覇市人材育成支援センターまーいまいNahaが開所し、語学講座、国際相互理解講座などを実施している。	○成果：語学講座、国際相互理解講座などを実施している。 ○課題、今後の取組：観光産業等の人材育成に資する講座の実施について、ニーズ調査や関係部局との調整のうえ検討する必要がある。	○事業：人材育成支援センターまーいまいNaha管理運営事業 ○計画：那覇市真和志南地区活き活き人材育成支援施設（仮称）管理運営計画（H31年度～R6年度）	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	40	県内の大学や専門学校、高等学校等と連携した観光人材育成支援と雇用の促進を図る。	観光課	取り組みがないため。	OCVBが実施している事例などを参考に、関係機関および関係団体との連携を含め引き続き実施手法について検討する。	－	日本全国では観光人材の不足、高齢化が課題となっており、那覇市においても同様の課題が懸念されるため、若者に学生の段階から観光産業に関する教育や観光産業のPRを行う等して、将来的な観光人材の育成と雇用促進を図ることが望ましいと考えられる	未着手
(イ)ユニバーサルツーリズムの推進								
	41	事業者と連携した、市内の観光施設、交通、公園、飲食関連施設等のユニバーサルデザイン化の促進を図る。 （手すりやスロープ、エレベーター等の設置促進や、点字や音声による観光関連情報の提供等）	都市計画課	令和元年度にバリアフリー基本構想を策定し、毎年開催する協議会において、基本構想の進捗確認を実施し、重点整備地区のバリアフリー化の促進を図っている。	引き続き、策定した基本構想の進捗確認、評価、改善を進め、重点整備地区における「面的・一体的なバリアフリー化」を図る。	那覇市バリアフリー基本構想	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	42	要支援観光客を対象とした旅行商品の開発促進を図る。	福祉政策課	関連事業等がないため。	関連事業等もなく、今後取り組む予定もないため、要支援観光客を対象とした旅行商品の開発促進を図ることは困難である。	－	「だれ一人取り残さない」SDGsの考えの浸透や、高齢者増加等の背景により、誰もが楽しむことができる「ユニバーサルツーリズム」が世界的に推進されている。那覇市においても、要支援観光客を含むすべての観光客が楽しむことができる旅行商品の開発に向けて、取組を検討することが考えられる	未着手
			観光課	取り組みがないため。	民間事業者の取り組みを注視しつつ、さらなる充実が必要か検討を行う。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	43	要支援観光客の受入体制強化を目的とした観光関連事業者への啓発活動に取り組む。	福祉政策課	令和4年度は職員向けに開催。公共施設（なはーと）を会場に、高齢者及び障がい者等の疑似体験と手引きの方法等を学ぶ内容で実施。	事業者の対象が幅広いので、それぞれの実務に活かせるサービス助を学べるよう、業種ごとに実施することも検討必要。	那覇市福祉のまちづくり推進事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
			観光課	取り組みがないため。	他課事業実施状況に留意しつつ、必要に応じ取り組みの検討を行う。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	44	要支援観光客に対応した医院、飲食店などを含む市内のバリアフリー情報を観光客も手軽に入手・活用できる仕組みづくりに取り組む。	観光課	観光協会HPへリンク設定済。	県や関係団体の取り組みを注視し、引き続き必要に応じ対応する。	観光協会ホームページ強化事業補助金(観光課)	「だれ一人取り残さない」SDGsの考えの浸透や、高齢者増加等の背景により、誰もが楽しむことができる「ユニバーサルツーリズム」が世界的に推進されている。バリアフリーの情報へのアクセシビリティ向上、情報の網羅性向上に向けて、必要に応じて取組を実施することが考えられる	完了

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証（令和 5 年 2 月）				
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況
	(ウ) 地域ぐるみでのおもてなしの展開							
	45	観光関連事業者のおもてなし力向上のための研修実施等に取り組む。	観光課	令和3年度まで外国人観光客受入整備事業で実施していたが、語学講座を除き、令和4年度以降は観光案内所運営補助金にて引き継いで実施中のため。	外国人観光客受入が再開し、外国人観光客数が回復途上。それに伴い事業者へのサポート要員派遣ニーズが増加すると思われることから、継続して事業実施が必要。	観光案内所運営補助金（観光課）	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	46	観光関連事業者、並びに市民に対する「那覇ならではの観光おもてなし力・設備」等に関する評価登録制度の検討、構築に取り組む。（ライセンス等の付与）	観光課	取り組みがないため。	類似事例などを確認し、今後の取り組み及び必要性について慎重に検討する。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	47	市民の観光産業への理解度及びおもてなし力を向上させることを目的としたセミナー等を通じ、おもてなし意識の醸成を図る。	観光課	未着手であり、実施手法について今後要検討	観光産業への理解向上は必要な取り組みと考えており、引き続き実施手法などについて検討する。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	48	市民による観光客への「ハイサイ、ハイトイあいさつ運動（仮称）」などに取り組む。	文化振興課	市民を対象に、親子で参加可能な内容のうちなーぐち講座を実施。観光客を受け入れる土壌となる市民が日常的にうちなーぐちを伝えるよう振興を図っている。	今後も本事業を継続していく	市民文化育成発信事業(うちなーぐち講座・成果発表)	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証 (令和 5 年 2 月)				
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況
(I) 安全・安心・快適なまちづくり								
	49	那覇市観光危機管理計画の策定と、これに伴う観光危機管理体制の整備を行う。	観光課	那覇市観光危機管理計画(平成31年3月)策定。管理体制の整備に向けて取組継続中。	策定した計画の管理体制の整備を実施する。	那覇市観光危機管理計画	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	50	建築物の耐火・耐震化の促進及び支援に取り組む。	建築指導課	那覇市耐震改修促進計画（令和5年1月)改定。耐震化率は概ね上昇している。	普及啓発活動に取り組むとともに、耐震診断義務付け建築物については耐震改修への補助を実施し、耐震化を促進する。	那覇市耐震改修促進計画	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	51	一定の防火基準に適合した宿泊施設に与えられる表示制度の普及促進に取り組む。	予防課	市内のホテル34件に対して交付済み (R4.12未現在) ・新型コロナウイルス感染拡大により、ホテル閉館や休館が続 き、件数自体は減少しているが、事業拡大に向けての取り組みは継続中である。 ・ホテルの収容人員300人以上を対象に制度のご案内を配付（R4.3実施）	今後も課題を含め継続して事業を実施する 【成果として】 観光立県の沖縄として、この制度を継続的に実施することは ・建物の安全・安心に関する情報となる ・宿泊客の安全・安心に対する信頼を得られる など、安全・安心・快適なまちづくりへと繋がっている。 【課題として】 ホテル関連施設の防火（防災）管理者に対して、継続的に周知を図り認知度を高め申請件数の増加に努める。	防火対象物適合表示制度 （適マーク制度）	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	52	災害時に観光客を最寄りの避難場所へ案内・誘導する避難情報システムの導入を図る。	防災危機管理課	那覇市総合防災情報システムの導入を完了しており、エリアメールを通じて那覇市内にいる方へ防災情報の伝達が可能になっているため。	職員がシステムの操作を滞りなく行えるようマニュアルを整備し、研修を行い、災害時に迅速な情報伝達を行うよう備える。	那覇市防災情報システム整備事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
	53	国内外の観光客を対象とした、医療機関、医療サービス（AEDステーションなど）の情報提供を図る。	観光課	OCVBが外国人観光客対応の「病気!ケガ!の外国人観光客対応HANDBOOK」「症状・病状説明コミュニケーションシート」を提供している。	観光案内所や観光協会HP、各種パンフレット等で観光客に向けた利用サービス情報の提供の在り方を検討する。	「病気!ケガ!の外国人観光客対応HANDBOOK」「症状・病状説明コミュニケーションシート」【OCVB】	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
			救急課	令和4年度に新規店舗（15店舗）へ設置を行った。次年度も設置予定である。	新規店舗への配置を進めていく。	那覇市コンビニAEDステーション設置事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	54	外灯の整備など、安全なまちづくりに取り組む。	道路管理課	本市が管理する道路照明灯について、民間資金を活用した一括調達方式によりLED化を行う予定であり、現在、公募型プロポーザルにより事業者との契約を今年度内に行う予定である。	契約した事業者において、令和5年度に全照明灯のLED化、令和6年度から10年間、維持管理を行っていただく予定である。	道路照明灯LED化事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	55	観光客の防犯対策や客引き等の迷惑行為の防止に取り組む。	観光課	巡回指導員を雇用し、定期的に国際通りの店舗を巡回・指導している。	迷惑行為に対する罰則の検討など取組の強化が求められているため、今後慎重に検討を行う。	めんそーれ観光充実事業 めんそーれ那覇市観光振興条例	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	56	観光関連事業者のモラル、マナーの向上に向けた啓発活動に取り組む。	観光課	巡回指導員を雇用し、定期的に国際通りの店舗を巡回・指導している。	迷惑行為に対する罰則の検討など取組の強化が求められているため、今後慎重に検討を行う。	めんそーれ観光充実事業 めんそーれ那覇市観光振興条例	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	57	公園やまちなかのトイレの整備及びメンテナンスの充実など、衛生面の環境整備を図る。	公園管理課	旭ヶ丘公園、松山公園、漫湖公園のトイレ改修工事を実施し、完了した。また、11公園の植栽剪定業務を実施し、完了した。	3公園についてトイレの整備、及び植栽剪定を行い公園の美化等を行った。	・亜熱帯庭園都市の公園美化事業(公園管理課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
			なはまち振興課	中心商店街の課題であるトイレ不足に対応するため、商店街組合及び通り会等所属の店舗のトイレを公衆用に提供・協力することに対して協定を締結し報償費の支給を行なっている	継続して協力店舗に対して報償費の支給を行ない、マチグーエリアにおいて協力店舗の適正な配置に努める。また、提供店舗であることがわかりやすい看板等の設置を行なう。	トイレ提供店舗支援事業(なはまち振興課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	58	ゴミのポイ捨て防止等、街の美化に対する市民意識の向上を図る。	観光課	違法看板やゴミ捨てに関する指導巡回を迷惑行為防止重点地区において指導員を配置し、観光客や市民への意識啓発を図っている。	同制度の周知、啓発活動等の実施を検討する。	めんそーれ観光充実事業 めんそーれ那覇市観光振興条例	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	59	簡易な宿泊滞在施設も含めた安全、安心機能整備の浸透を図る。	生活衛生課	住宅宿泊事業法に基づき本市独自に「那覇市住宅宿泊事業の実施の制限に関する条例」を制定した。	条例制定後、民泊関連の苦情件数が減少した。今後の取組としては、法改正の予定がないこと及び新型コロナウイルスの影響で宿泊実績が少ないことから、現時点で条例改正の予定はないが、引き続き法改正や事業者・市民等の意見を踏まえて条例改正の検討を行う。	那覇市住宅宿泊事業の実施の制限に関する条例	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
			観光課	取り組みがないため。	類似事例などを確認し、今後の取り組み及び必要性について慎重に検討する。	—	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証（令和5年2月）				
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況
(オ) 観光協会の機能充実								
	60	広報活動や、市内の観光関連事業者との連携事業の実施等を通じて那覇市観光協会の会員増加に繋げ、観光協会の横断的ネットワーク強化に取り組む。	観光課	那覇市観光協会の運営及び実施に係る費用を支援している。	民間主導となるべき取組のコーディネート役としての観光協会の活動を支援しつつも、その支援の在り方については取り巻く環境を注視し必要性を随時見直しを行う。	観光協会運営補助金(観光課) 観光協会事業補助金(観光課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	61	沖縄県並びに他市町村、観光関連団体等と連携し、国内外の観光市場に対して観光情報の集約、発信などプロモーション活動に取り組む。	観光課	県外のお祭りなどで那覇市紹介ブースの設置、那覇観光キャンペーンレディーを派遣するなど、他都市と連携した観光客への宣伝活動を行っている。	観光協会の実施する宣伝活動等に対する支援を継続する。	観光協会事業補助金(観光課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	62	地域で活動する農業や商工業などの各種団体や、観光に関わる多様な人材との相互連携を図る。	観光課	農業や商工業者との関わりはないが、観光関連団体への負担金を支出し、情報交換等を行っている。	観光関連事業者への負担金の支出を継続する。	那覇市観光協会負担金 沖縄観光コンベンションビューロー賛助会費 沖縄国際会議観光都市推進連絡協議会負担金	地域一体で観光振興に取り組むにあたり、関係者間の密な連携は重要度が高いと考えられる。継続的に連携強化を図っていくことが重要と考えられる	着手済み
	63	観光の専門的ノウハウを持った職員の登用と育成を図る。	観光課	旅行会社からの出向職員や外国語が堪能な職員を採用し、各事業担当をしている。	引き続き、観光の専門的ノウハウを持った人材が活躍できる環境を整える。	観光協会運営補助金(観光課)	観光地経営の高度化に向けて、経営戦略や組織マネジメント、マーケティング、プロモーション等の専門知見を有する人材の取込の強化を図ることが考えられる	着手済み
	64	着地型観光商品や物産の開発・販売を強化し、自立的な財務基盤形成に取り組む。	観光課	平成22年より那覇市観光協会が実施する「ガイドと歩く那覇まちまーい」に係る費用を支援している。	那覇まちまーいを自立的に運営できるよう補助や事業計画策定支援を行う。	観光まちづくり整備補助金	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証（令和5年2月）				
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況
【取組の展開④】市内回遊と交通ネットワークの連携・整備								
(ア) 交通結節点整備と回遊できる仕組みづくり、二次交通の利便性向上								
	65	レンタカーから公共交通への乗り換えを促す施設の整備を図る。	都市計画課	那覇市都市交通基本計画で、「交通に対する意識改革」、「公共交通利用環境の向上・充実」に取り組んでいる。	引き続き、フリンジパーキングの周知など、活用に取り組む。	那覇市交通基本計画 第二期那覇市総合交通戦略	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	66	パーク＆ライド促進のため、ゆいレール駅周辺の駐車場情報の発信・提供に取り組む。	都市計画課	那覇市都市交通基本計画で、「交通に対する意識改革」、「公共交通利用環境の向上・充実」に取り組んでいる。	引き続き、モノレール利用環境の向上・充実に取り組む。	那覇市交通基本計画 第二期那覇市総合交通戦略	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	67	路線バスの運行情報やゆいレールから路線バスへの乗り継ぎ情報の提供に取り組む。	都市計画課	那覇市都市交通基本計画で、「公共交通利用環境の向上・充実」、「多様な移動手段の利用環境の向上・充実」を図っている。	引き続き、バス、モノレール利用環境の向上・充実と公共交通の連携施策に取り組む。	那覇市交通基本計画 第二期那覇市総合交通戦略	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	68	雨や日差しを遮り、快適に路線バスを利用するためのバス停上屋の整備を行う。	道路建設課	観光客にとって移動しやすく、快適な交通環境の実現に向け、バス停で強烈な日差しや雨風を避けられる環境を整えるため、バス停上屋整備を実施している。	H24年度～R3年度までに33基のバス停上屋を整備し事業を完了した(バス停上屋整備事業) R3年度5基（小禄地域1基、石嶺地域4基）のバス停上屋を整備し、令和10年度まで合計17基を整備予定である。(街路整備事業)	バス停上屋整備事業(道路建設課) 街路整備事業(道路建設課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
	69	観光客の回遊性を考慮した観光バス乗降場所、待機場の整備を行う。	観光課	のうれんプラザ隣接の県有地及び明治橋付近の那覇港管理組合所有地を貸切バス乗降場及び待機場として整備している。	明治橋貸切バス待機場を令和元年10月より供用開始。貸切バス乗降場を令和2年3月より供用開始。	貸切バス乗降場・待機場整備事業 明治橋貸切バス待機場整備事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
	70	環境に優しい次世代型の新交通システムの導入に取り組む。	都市計画課	LRTなどの公共交通システムを基幹的公共交通の軸として那覇市地域公共交通網形成計画に位置付け、導入に向けて取り組んでいる。	令和3年度から令和4年度にかけて、関係機関との協議に必要なLRT整備計画素案を作成している。素案について関係機関との協議を進め整備計画の策定に取り組む。	那覇市交通基本計画 第二期那覇市総合交通戦略 那覇市地域公共交通網形成計画	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	71	主要観光資源やスポットを通る公共交通ルートの分かりやすい情報提供及びゆいレールとバス路線を活用した観光ルートの推奨に取り組む。	観光課	那覇市観光協会HPにて対応済。	引き続き継続した情報発信に努める。	観光協会ホームページ強化事業補助金(観光課)	特に日本の交通事情に不慣れなインバウンドが観光スポット等を周遊する際には、便利な二次交通やわかりやすい案内等が求められる。インバウンドの那覇市内周遊をより促進させるためには、那覇空港や那覇港からの二次交通の利便性を向上させるとともに、二次交通の案内を充実化する必要があると考えられる	着手済み
	72	主要な観光資源だけでなく、周辺にある隠れた観光資源をルート化し、情報発信に取り組む。	観光課	那覇市観光協会HPにて対応済。	引き続き継続した情報発信に努める。	観光協会ホームページ強化事業補助金(観光課)	主要観光スポットへの集中、それに伴う混雑の発生といった問題への対処法として、観光スポットの分散化は有効な取組と考えられる。隠れた観光資源のルート化、情報発信においては、観光資源の魅力が最大限伝わるように工夫しながら取組を進めることが考えられる	着手済み
	73	安全で快適な自転車走行空間と駐輪場の整備を進め、レンタサイクルの利用促進を図る。	都市計画課	那覇市都市交通基本計画で、「多様な移動手段の利用環境の向上・充実」を図っている。	令和4年度に本市における自転車の活用を総合的かつ計画的に推進することを目的に那覇市自転車活用推進計画の策定を予定しており、今後は計画の取り組みの中で自転車利用環境の向上・充実に取り組む。	那覇市自転車ネットワーク計画 那覇市自転車活用推進計画（令和5年3月策定予定）	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証（令和5年2月）				
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況
(イ) 巡って楽しめる魅力的な道づくり・景観づくり								
	74	都市環境整備と連携し、まち歩きルート上の街角スポットの植栽化促進を図る。	公園管理課 （旧：花とみどり課）	今年度は136団体へ花の苗を配布。 25ヶ所の公共花壇への植付を行った。	観光都市として魅力的な都市緑化景観の創出のため、引き続き花苗の配布及び公共花壇の植栽管理を引き続き実施する	花いっぱい運動推進事業 花壇花卉植栽業務	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	75	観光客や歩行者が、楽しく安全に歩ける道づくりに取り組む。	道路管理課	観光に資する路線について、観光都市としてふさわしい道路景観の形成を図るため、街路樹の剪定や除草、花の咲く低木の植栽などを行っており、あわせて、周辺道路においても、街路樹の剪定や除草等を実施している。	今後も引き続き、観光に資する路線において、道路美化(高木剪定・除草・植栽)を行い観光都市としてふさわしい道路環境及び景観を創出する。あわせて、周辺道路においても、街路樹の剪定や除草等を適切に実施する。	亜熱帯庭園都市の道路美化事業 道路維持管理事業 街路樹維持管理費	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	76	年間を通じて花のまち歩きを実現するため、行政、市民、民間事業者の協働により魅力ある植栽、維持管理、景観づくりに取り組む。	道路管理課	協働による植栽、維持管理、景観づくりの一環として、道路ボランティア事業とグリーンロードサポーター事業を実施している。 観光に資する路線について、観光都市としてふさわしい道路景観の形成を図るため、街路樹の剪定や除草、花の咲く低木の植栽などを行っている。	道路ボランティア及びグリーンロードサポーターは、R5.1月末時点の延べ件数がそれぞれ、道路ボランティア147団体、グリーンロードサポーター47団体となっている。 加入団体の構成員の高齢化等が課題となっており、引き続き加入団体の支援及び新規団体の募集に努める。 今後も引き続き、観光に資する路線において、道路美化(高木剪定・除草・植栽)を行い観光都市としてふさわしい道路環境及び景観を創出する。あわせて、周辺道路においても、街路樹の剪定や除草等を適切に実施する。	道路ボランティア事業 グリーンロードサポーター事業 亜熱帯庭園都市の道路美化事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	77	那覇市の景観に調和した誰もが安全・安心に移動できる公共サインの整備に取り組む。	都市計画課	H26.3に策定した「那覇市公共サイン計画」に位置付けて、誘導を図っている。	公共デザインマニュアル（H31.2改定）を活用し、適切な維持・管理を促す。	那覇市公共サイン計画 公共デザインマニュアル （以上、都市計画課）	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
			観光課	那覇市公共サイン計画に基づき那覇市多言語観光案内板を整備済み	首里地区・国際通りを中心とした中心市街地に周辺案内板・誘導版を設置しており、観光客に利用いただいている。 設置から年数経過し、周辺案内板の情報更新や案内板の劣化等が目立つ。 良好な景観を保つためにも設置済み看板の維持・修繕に取り組む。また、必要に応じて新たに観光案内板設置の調査検討。	那覇市多言語観光案内板整備事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	78	観光ゾーニングの「中心市街地賑わいゾーン」は、歩行者優先の交通対策を検討し、安心して快適に歩ける街の実現に取り組む。	観光課	違法看板に対する巡回指導を行っており、快適な歩行空間の維持に取り組んでいる。	同制度の周知、啓発活動等の実施を検討する。	めんそーれ観光充実事業 めんそーれ那覇市観光振興条例	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
			なはまち振興課	トランジットモール(毎週日曜日 12～18時開催)の取り組みを支援している。	継続して魅力あるトランジットモールに向けて支援を行う。	国際通りトランジットマイル助成金事業(なはまち振興課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
			都市計画課	那覇市都市交通基本計画で、「交通に対する意識改革」として自動車交通の抑制を図っている。	引き続き、パーク＆ライド等の利用促進を図り、中心市街地等の主要拠点へ流入する自動車交通の抑制に取り組む。	那覇市交通基本計画 第二期那覇市総合交通戦略	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証（令和5年2月）					
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況	
【取組の展開⑤】那覇市観光の内外への情報発信強化									
(ア) 世界へ向けた旬の魅力の情報発信									
		79	季節・時間帯に応じたコンテンツやイベント等の内容及び魅力・楽しみ方に関する情報をタイムリーに集約・発信できるネットワークの整備に取り組む。	観光課	那覇市観光協会HPにて対応済。	引き続き継続した情報発信に努める。	観光協会ホームページ強化事業補助金(観光課)	日本全国では、アプリでのプッシュ通知等による情報のリアルタイム発信や、AIを活用し年齢や性別等の属性ごとにパーソナライズ化された情報の提供を行う事例もある。また、インバウンドの旅行前の情報収集ではSNSが多く活用されており、SNSの活用も含めてより質の高い、来訪者のニーズに沿った情報発信方法も必要に応じて検討することが考えられる。さらに、観光客のサステナビリティに対する意識が高まっていることを踏まえ、那覇市における文化保全や環境保全等のサステナブルな観光に取り組む姿勢等の発信も検討することが望ましいと考えられる	着手済み
		80	観光客のニーズに応じた、那覇市の旬な魅力に関する情報発信に取り組む。	観光課	那覇市観光協会HPにて対応済。	引き続き継続した情報発信に努める。	観光協会ホームページ強化事業補助金(観光課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
		81	観光客が欲しい情報を簡便に手に入れられる情報体制の整備に取り組む。	観光課	那覇市観光協会HP協会事業により、観光協会のHPは整備済。那覇市観光資源データベースも平成30年度に更改し運用中。	観光協会HPや那覇市観光資源データベースの整備・更改時と比較し、スマホやSNSが普及し利用者数も増加。情報収集手段が変化。観光客の属性にもよるが、今後はwebサイトよりもSNSを活用した手法も検討する必要があると思われるため。	観光資源データベース登録事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
		82	市場（潜在観光客）にとって利便性の高い那覇市観光情報ポータルサイトやパンフレット、画像・動画コンテンツ集等の観光情報ツールの構築を図る。	観光課	観光資源データベースについては、具体的取組81の回答欄を参照。観光案内マップの提供は那覇市観光案内所で実施中。	観光資源データベースについては、具体的取組81の回答欄を参照。観光案内マップの提供は観光客の属性などにより電子データの更なる活用が必要と思われるため。	観光資源データベース登録事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
		83	フィルムコミッション、アニメ等を通じた那覇市のプロモーション推進に取り組む。	観光課	取り組みがないため。	OCVBが運営する沖縄フィルムオフィスが沖縄県内の各種撮影支援に取り組んでおり、同事務局と適宜連携し、撮影希望者を支援している。市として、フィルムコミッション、アニメ等を通じたプロモーション実施の必要性は乏しい。	-	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
				なはまち振興課	観光客等で賑わう国際通りに屋外型大型ビジョンを整備し、観光情報の発信力強化及び観光リゾート地としてのイメージアップを図っている。	運営負担軽減を図るため民間企業等の広告を掲載し、収入を運営費へ充当している。また、大型ビジョンの多用途活用により中心商店街の魅力向上を図り、来街者の増加に取り組む。令和6年度からの那覇ぶんかテンプス館との一体的活用事業に向けた取り扱いを検討する。	国際通り情報発信大型ビジョン活用事業(なはまち振興課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
(イ) 口コミ・SNS情報の展開～市民と観光客によるシティセールスの展開									
		84	市民や観光客による情報発信が容易に可能なソーシャルメディアの環境を充実させ、その普及と活用促進を図る。	観光課	那覇市観光課公式Instagramを活用し、市民・観光客向けに市内の観光情報を発信。	引き続き必要な観光情報をSNSを活用して発信することで、市民・観光客へ那覇の魅力を周知し、観光誘客を図る。フォロワー増加数、リーチ数等の数値を記録して、発信内容の検討を行う。	物語性のあるランドマーク創出事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証（令和5年2月）				
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況
【取組の展開⑥】外国人観光客への体制整備								
(ア) 国別のニーズ、特徴を見据えた誘客戦略・プロモーション								
	85	各国の日本旅行への期待と満足度に配慮した商談会、情報提供等のプロモーション実施に取り組む。	観光課	取り組みがないため。	OCVB、他市町村や観光協会との連携やMICE受入推進事業の取組の一つとして実施方法の検討を図る。	MICE受入推進事業	那覇市観光におけるターゲット層を明確に定めたうえで、ターゲットごとに適切なマーケティング・プロモーション施策を行うことが望ましいと考えられる	未着手
	86	JNTO（日本政府観光局）、県、OCVBの国内、海外事務所との連携強化を図る。	観光課	研修会や連絡会、必要に応じて情報交換し連携を図っている。	引き続き必要に応じて連携を図る。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	87	ムスリムなどの国の信仰、信条や慣習に配慮した接客ハンドブック、パンフレットなどの制作配布や研修会開催に取り組む。	観光課	取り組みがないため。	今後の取り組み及び必要性について慎重に検討する。	－	特に、今後インドネシアや中東諸国等のムスリムが多い国家からの来訪者は増加することも考えられる。左記のような国からの来訪者への対応、満足度向上に向けて、信仰、信条や慣習に配慮した取組は必要と考えられる	未着手
	88	県外・海外の旅行会社に対する説明会や商談会、情報提供等のプロモーション活動の実施に取り組む。	観光課	取り組みがないため。	OCVB、他市町村や観光協会との連携やMICE受入推進事業の取組の一つとして実施方法の検討を図る。	MICE受入推進事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	89	外国人の目から見た那覇市の魅力情報発信サイトの立ち上げの検証に取り組む。	観光課	取り組みがないため。	類似事例などを確認しつつ、SNSの発達なども考慮したうえで、今後の取り組み及び必要性について慎重に検討する。	－	「出発前に役に立った旅行情報源」について、インバウンドの回答は「日本在住の親族・知人」が最も多いため、那覇市に在住する外国人あるいは那覇市で観光産業に従事する外国人等による魅力情報発信は来訪前のインバウンドへの訴求力が高いことが考えられる	未着手
(イ) 沖縄文化を通じた日本の魅力、那覇ブランドの発信								
	90	外国人向け体験メニューの開発に取り組む。	観光課	取り組みがないため。	民間事業者等の取り組みを注視し、今後の取り組みについて慎重に検討する。	－	インバウンド、特に欧米豪からの来訪者は、日本ならではの文化（現地での生活含む）や歴史を楽しめるツアー・アクティビティといったコンテンツを求める傾向にあり、インバウンドのニーズに合わせた体験メニューの開発は重要性が高いと考えられる	未着手
			商工農水課	工芸館体験工房では、外国語対応の説明書を用意したりするなど、外国人へのサービス提供に配慮し、受付時は翻訳機等で対応を行っている。	引き続き、より細やかな外国人への対応や、提供サービスの高付加価値化など、より柔軟な体験メニューの提供に取り組んでいく。	伝統工芸館運営事業等	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
	91	外国向けのネットサイト開発、外国語標記パンフレットに取り組む。	観光課	観光協会HPは多言語対応済。 外国人向けの防災ガイドを防災危機管理課にて作成済。	引き続き必要に応じ関係機関・団体と連携。	観光危機管理計画	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証（令和5年2月）				
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況
(ウ) 外国語標記、Wi-Fi環境整備など情報発信の整備と利便性向上								
	92	Wi-Fiスポット、サービスの拡大を図り、そのサービス情報の提供に取り組む。	観光課	Wi-Fiスポット、サービスの拡大を行い、Wi-Fiスポット周辺には表示を設けるなど情報提供実施。民間事業者と包括連携協定を結び、公衆無線LAN環境の維持に取り組んでいる。	包括連携協定が2024年3月までとなっているため、今後の運用方法について検討する。	公衆無線LANサービス利活用事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
	93	携帯電話、スマートフォンに対応した観光情報、サービスの提供に取り組む。	観光課	観光協会H P (NAHA-NAVI)はスマートフォンに対応した表示が可能である。	I C T や A I 等の技術を活用した新たなサービスの提供を検討する。	特になし	インバウンドの旅行前の情報収集ではSNSが多く活用されており、来訪者の使用媒体に沿った情報発信方法も必要に応じて検討することが考えられる。また、ICT技術やアプリ等を活用しながら、プロモーション手法を観光客のニーズに合わせてアップデートし続けることが望ましいと考えられる	完了
	94	公共交通機関の案内の多言語化を図る。	観光課	モノレールやバス路線について多言語の観光案内パンフレットや「のりものNAVI Okinawa」により充実が図られている。	各交通事業者の取り組みを注視しつつ、必要に応じて支援策等を検討する。	特になし	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
	95	QRコードやアプリを活用した観光案内を行う。	観光課	取り組みがないため。	民間事業者等の取り組みを注視し、今後の取り組みについて慎重に検討する。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
			商工農水課	令和2年度まで補助事業により同事業に対し支援を行った。首里城焼失や新型コロナウイルス感染症の影響もあり、観光客減となったが、「那覇CLIP」だけでなくオンラインでの伝統工芸教室実証実験を行うなど、時宜に合う取り組みを実施した。	本市の基本計画が令和5年3月をもって満了するため、事業完了となる。	地域未来投資事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
	96	外国人向けATMの設置及び決済環境の整備を促進し、その設置情報の発信に取り組む。	観光課	取り組みがないため。	民間事業者等の取り組みを注視し、今後の取り組みについて慎重に検討する。	－	特に欧米豪のインバウンドはクレジットカードでの決済が主流であり、中国のインバウンドはアリペイなどのキャッシュレス決済が主流である。インバウンドの利便性向上や機会損失回避の観点から、特にキャッシュレス決済の体制整備は重要性が高いと考えられる。消費に直結する取組であり、現状を把握した上で適切な施策を検討する必要があると考えられる	未着手
	97	消費税免税店の拡大と制度の情報発信。	観光課	取り組みがないため。	民間事業者等の取り組みを注視し、今後の取り組みについて慎重に検討する。	－	中国からのインバウンドによるいわゆる「爆買い」は2016年頃と比較して落ち着いているものの、円安の影響もあり、特に中国・韓国・台湾・香港といった東アジアからのインバウンドにおける買い物のニーズは高い状況である。インバウンドが那覇市内のどこで買い物をしているのが現状を把握した上で、適切な施策を検討する必要があると考えられる	未着手
(エ) 観光事業者の語学力向上及び外国人向け通訳・ガイドの育成								
	98	事業者向け国・言語別の簡便な言葉のガイドブック作成、配布に取り組む。	観光課	取り組みがないため。	民間事業者等の取り組みを注視し、今後の取り組みについて慎重に検討する。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	99	一般商店や飲食店なども含んだ事業者向け語学講座の開設に取り組む。	観光課	令和3年度まで外国人観光客受入整備事業で実施していたが、語学講座を除き、令和4年度以降は観光案内所運営補助金で引き継ぎ、市内事業者への語学や翻訳サポートという形で実施中。	外国人観光客受入が再開し、外国人観光客数が回復途上。それに伴い市内事業者へのサポート要員派遣ニーズが増加することから、継続して事業実施が必要。	観光案内所運営補助金（観光課）	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	##	那覇市内の外国語学校、大学などと連携し、「ボランティアガイド体験講座」の実施に取り組む。	観光課	取り組みがないため。	民間事業者等の取り組みを注視し、今後の取り組みについて慎重に検討する。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	##	通訳案内士、医療通訳、ビジネス通訳などの育成を図る。	観光課	取り組みがないため。	民間事業者等の取り組みを注視し、今後の取り組みについて慎重に検討する。	－	インバウンドの満足度向上に向けて、インバウンドの母国語での案内は重要性が高いと考えられる。外国語対応可能な日本人の育成に加え、観光産業における外国人材の更なる活用等も考えられる	未着手

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証（令和5年2月）				
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況
【取組の展開⑦】観光産業の持続的な発展支援								
(ア) 雇用の確保、労働環境の改善による観光産業の社会的地位の向上								
	##	長時間労働の抑制や休日休暇取得、給与水準の向上、女性管理職の登用など、観光産業の労働環境改善に業界として取り組む。	商工農水課	・長時間労働の削減や有給休暇取得促進といった「働き方改革」の推進や最低賃金引上げに伴う関係機関の施策案内等、ホームページやSNS、市広報誌において周知を行った。 ・中小企業向けに、人材育成等のテーマでセミナーを開催	・引き続き「働き方改革」の推進に向けて周知啓発を行う。 ・引き続き中小企業向けのセミナーを開催する。	・なはし創業・就職サポートセンター運営事業(商工農水課) ・市内企業経営基盤強化事業(商工農水課)	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	##	大学と連携した語学研修、観光学MBAなど、スキルアップ講座の開設に取り組む。	観光課	取り組みがないため。	県やOCVBなどの取り組みを踏まえ、今後の取り組みについて慎重に検討する。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
(イ) 子供から高齢者まで、那覇市観光に対する市民理解の向上								
	##	那覇市の観光の波及効果を分かりやすく数値化、ビジュアル化した冊子の作成及び公表に取り組む。	商工農水課	新型コロナウイルス感染症の影響等により事業中止。	本事業は終了するが、本市の地域産業や新ビジネス分野等の情報発信については方法を再度検討し、適宜実施していく。	「なはけいざいMAGAZINE」発行事業	観光振興を那覇市の経済の持続可能性につなげていくためには、継続的に観光による経済波及効果を算定することが望ましいと考えられる。また、那覇市民に観光振興が市民生活にどのようなプラスの影響を与えているのかを伝えることも、市民の観光振興への理解醸成を図るためには重要であると考えられる	完了
			観光課	取り組みがないため。	県やOCVBなどの取り組みを踏まえ、今後の取り組みについて慎重に検討する。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	##	小・中・高校での「那覇市の観光」の特別授業の実施の検討を行う。	観光課	取り組みがないため。	観光への理解向上には必要な取り組みと考えており、引き続き実施手法などについて検討する。	－	日本全国では観光人材の不足、高齢化が課題となっており、那覇市においても同様の課題が懸念されるため、若者に学生の段階から観光産業に関する教育や観光産業のPRを行う等して、将来的な観光人材の育成と雇用促進を図ることが望ましいと考えられる	未着手
	##	小・中・高校での職場訪問及び就労体験などで観光産業に触れる機会の創出を図る。	観光課	小・中・高校の職場体験、大学のインターン受入を行っている。	実施手法について、職場訪問及び就労体験の現状を把握し、方向性について検討する。	－	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了

那覇市観光基本計画(取組の内容毎)の達成状況評価シート

取組	#	取組の内容	庁内関係課	検 証（令和5年2月）				
				判断の理由	成果・課題・今後の取組	取組の内容に関連する事業名・計画等	外部環境を踏まえた検証	達成状況
(ウ) エコ、環境保護に対応した観光産業の取り組みの推進								
	##	生ごみ、廃食油、廃熱などのリサイクルへの取り組みに対する支援助言・指導を行う。	環境政策課 （旧：廃棄物対策課）	大規模事業所訪問によって、リサイクル等の助言等を行っているため。	成果として、廃食油等については、多くの事業所において再資源化が行われている。生ごみ等については、資源化のコストが高く、導入する事業所は限られることが課題と考えられる。今後も引き続きリサイクルに係る助言等を継続する。	ごみ減量・資源化推進事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み
	##	エコ・環境配慮などに取り組み施設、事業者に対する表彰制度の検討を行う。	環境政策課	取り組みがないため。	・観光功労者表彰における、事業者推薦の要件や基準等について観光課と連携を行う ・観光事業者を通じて観光客へ普及啓発を行うことで、環境配慮行動を促すことで、持続的な観光の発展を支援する。	環境基本計画（環境政策課）	国内観光客・インバウンドともに環境への意識は高まっており、今後は「環境に配慮した取組を実施しているか」が旅行先や宿泊先等の検討における判断軸となっていくことも考えられる。そのため、事業者に環境に配慮した取組を促すことは重要性が高いと考えられる	未着手
	##		観光課	取り組みがないため。	イベント主催団体にクレジット及びカーボン・オフセットの取組を奨励し、「観光功労者表彰」の受賞要件において候補者となるよう検討する。候補者選考時には環境政策課にも推薦者がいないか確認し、連携を図る。	那覇市観光功労者表彰事業(観光課) 環境基本計画（環境政策課）	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
(エ) 観光入込統計の充実および観光客と市民の意識調査の定期的実施								
	##	外国人客も含めた既存観光入込統計調査の精度向上を図る。 （サンプル数向上、宿泊客数推計手法検討、定性調査、満足度調査の検討など）	観光課	取り組みがないため。	コロナ期により外国人客が訪日できない状況が続いたが、今後インバウンド回復に向け、国・県・OCVBの既存のデータを活用しつつ、データ収集の手法等について今後検討する。	観光入込統計調査事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	未着手
	##	市民意識調査や県外在住者のイメージ調査などを定期的にを行う。	企画調整課	観光意識に関する調査項目を設け、隔年毎に調査を継続している。	令和3年度に調査を実施し、また調査報告書を公表することができた。引き続き本調査に対する市民理解を高め、継続して調査を実施して参りたい。	市民意識調査・令和5年度調査実施予定	検証を行った結果、左記評価と同じ	完了
	##	インターネットを活用した簡便な調査手法の検討を行う。	観光課	令和3年度の観光入込統計調査よりWEBによるアンケート方式を採用している。	WEBアンケートのみでは、回答者属性のバランスに課題が残ると思われたが、令和3年度WEB調査では、対面方式と比べ回答者属性のバランスに大きな変化はなかったため、今後も実施する予定。	観光入込統計調査事業	検証を行った結果、左記評価と同じ	着手済み